

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

先人たちの声

社会福祉法人恩賜財団済生会支部福岡県済生会 介護老人保健施設

済生会くれたけ荘 入所100名
北九州市八幡東区中尾1-22-18

平成8年8月に開設。母体は日本最大の社会福祉法人であり、地域に根差した医療・保健・福祉を幅広く提供している。



事務課長
杉田さん

北九州モデル導入の主な取組内容

- **見守り（センサー対応）**
【取組】 センサー設置基準の設定とマニュアル化
【効果】 センサー対応半減、職員負担感減
- **書類作成**
【取組】 記録ソフトとインカムによる申し送り方法見直し
【効果】 申し送り作成時間 約70%減（申し送りノート廃止）
- **入浴**
【取組】 入浴日やケア用品の見直し等
【効果】 入浴業務時間 ▲1時間/日 など



	R5	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R6	1月	2月	3月
準備 キックオフミーティングと今後の流れの共有	■											
調査 センターによる業務量調査と結果報告会		■	■	■								
検討 課題抽出と解決策立案に向けた意見交換				■	■	■						
実践 取組の実施/センターとの意見交換/振り返り						■	■	■	■	■	■	■

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

介護人材不足と職員の負担軽減といった課題に立ち向かうべく、業務改善へ取り組もうと模索をしていました。そんな折、北九州モデルの話があり、これをきっかけに**現場の士気を高め、自分たちで継続した業務改善活動**を展開していけるようになるのではないかと思います、取組に参加することにしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

これまで漠然と捉えていた状況を、**業務量調査や問題分析によって洗い出したことで、客観的に業務を見直すことができました。**また、改善活動の必要性やその進め方を現場に浸透させることができ、**職員の意識改革と取組の継続・展開**を図ることができました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは各部門のリーダーが集う運営会議の場で、**北九州モデルに取り組む目的やその内容を共有**していきました。そして、各部門のリーダーから現場へと周知を図り、**現場から取組メンバーも選出**して進めていきました。業務量調査など職員に**負荷がかかる行程では、再度目的やその見通しを説明**し、合意形成を図っていきました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

現在、職員の負担軽減に向けて早出や夜勤の業務内容を見直している最中です。今後は、より**効率的かつ科学的介護の実現に向け、ペーパーレス化や記録システムの見直し**を進めていく方針です。また、**入浴における職員の負担軽減と利用者の満足度アップ**も目指しています。

3 取組にあたり壁になったことは？

新たな取組を始めると、どうしても一時的な負荷がかかり、またすぐには大きな成果が得られにくいことも相まって、現場のモチベーションを維持することが大きな課題となりました。そこで、まずは**小さなことからでも成果を生み出し、成功体験を重ねていく**ことで、職員のモチベーションを保つことができました。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

これまでの当たり前が当たり前ではなくなる時代がすぐそこにまできています。**今が変わるチャンス**だと思います。たとえ小さな変化だとしても、確実に職員のやりがいや自信へとつながります。**今いる職員にとっても、これから介護を担う人材にとっても働きがいのある魅力ある施設づくり**に臨んでいただければと思います。